

～中晩柑への更新による経営安定とイノシシ対策～
井上正直さん（西予市（三瓶町））

[所属・役職等]

井上農園代表

イノシシ M.U.A 組合代表 1976 年生まれ



☆経営概況☆

高校卒業後、**県内に就職しましたが、地元の三瓶町が忘れられませんでした。**また、親が元気なうちに一緒に仕事をして、技術や経営を習っておきたいと考え、2006年に思い切って就農しました。現在では、家族4人（父、母、妻、自分）で柑橘類3.5ha（‘温州みかん’ 1ha、‘せとか’ 1ha、‘甘平’ 他 1.5ha）と水稻 2.3haを栽培しています。

☆ここがポイント☆

■家族4人で手が回るように構成。

‘温州みかん’だけでは作業が集中し、人を雇わないといけなくなるので、中晩柑を取り入れて労力を分散しています。手間、単価、将来性を考えて、特に、‘せとか’と‘甘平’に力を入れているところです。**人を雇わなくても手が回るように品種構成や作業の段取りを考えています。**水稻は、柑橘産地である三瓶町では珍しく、収益というよりは、**地域で今まで続いてきた水田を絶やしたくないという思いと、おいしいと言ってくれる人のために栽培しています。**

■イノシシ捕獲にも積極的に取り組む！

三瓶町の柑橘園地では、**イノシシの被害が多く**、一晩で数十万円分の被害が出ることもあります。安心して柑橘を栽培するには、捕獲して数を減らす必要があります。仲間とともに、箱罠、くくり罠をはじめ、**遠隔監視型捕獲システム**による捕獲にも取り組んでいます。2016年9月には、イノシシ捕獲のための組織「**イノシシ M.U.A 組合**」を立ち上げ、柑橘栽培の傍ら、捕獲、止め刺し、搬出などの活動を行っています。

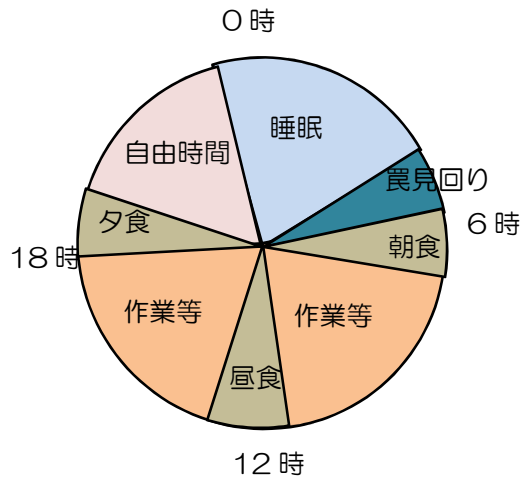


～収穫作業の様子～



～園地からの風景～

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

ライフスタイル

毎朝仕掛けた罠を見回るのが日課です。日中は農作業をして、夜は地元のソフトボールに参加したり、趣味のイカ釣りに行ったりします。

柑橘の収穫時期である10月から2月までは忙しく、朝から夕方まで収穫、帰ってからは選別と、かなり大変です。

摘果や袋かけなどの適期を逃してはいけない作業も、**家族で集中的に取り組んで、早く終わらせるよう心掛けています。**

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	基本的に毎日、収穫、選別、出荷などの作業をします。					
【通常期】	やるがあればやります。雨で作業ができなければ休みます。					



～捕獲用の罠を設置する様子～



～イノシシ捕獲後の様子～

☆これからの夢や目指すもの☆

現在、三瓶町では若い農家が増えていますが、さらに多くなってほしいと思います。自分がそうであったように、**自分の息子たちも「跡を継いでもいいかな」と思えるような経営、生活を目指したいです。**

☆メッセージ☆

地域が抱える問題には正面から向き合い、**自分達の農地や集落を、より良くしていくことが大切**だと思います。誰かがしなければならないことは、協力して、または率先して取り組むことも必要で、大変なこともあります。家族、仲間、地域など、やはり**自分には地元での生活がある**と感じます。